

本号は、アジア・国際経営戦略研究論集（旧 AIBS ジャーナル）の2020年度発行の第14号であり、当研究科在籍学生の研究成果を掲載する論文誌として再出発した後の第2号になる。本号に掲載された論文は、博士後期課程在籍の2名の投稿論文、及び2019年度修了学生の修士学位論文うち3件を収録している。

投稿論文2件は、巻末の規定に則り、研究科委員により審査された論文である。1件は、白義納氏による、「新興国における研究開発拠点の能力構築に関する研究」であり、日本企業の新興国における研究開発拠点の知識創造能力構築と全社知識ネットワーク構築に影響を与える要因を、事例分析に基づき探究した論稿である。もう1件は、楊超氏による、「ネットワークケイパビリティとオープンイノベーションに関する実証研究」であり、オープンイノベーションのパフォーマンスとネットワークケイパビリティの関係を、日本企業を対象とした実証研究により明らかにしようとする論考である。いずれも、博士論文を作成する過程での研究成果を取りまとめた論稿であり、博士論文全体の中に本来は位置づけられるべき考察であるため、若干読取り難い点があることを読者諸氏にはお許し願いたい。

修士学位論文3件のうち2件は修士論文であり、1件は研究報告書である。当研究科における修士学位論文は、先行研究や関連情報、法令等を不足なく検討した上で獲得された知識に裏付けられる明確な問題認識に基づいて研究テーマを設定した修士論文と、特定の課題に対する実務経験やインターンシップといった実践的な経験に裏付けられる明確な問題認識に基づいて研究課題を設定した研究報告書に分けられる。修士論文2件は、韓睿氏（2020年3月修了）の「日系企業労働者の実態調査からみる人的資源管理対策論——当事者の自己認識とそのビヘイビア——」、LIU SHUHUI氏（2020年3月修了）の「両利きのマネジメントに関する研究——海外子会社の自律性の観点から——」、研究報告書1件は、井上直幸氏（2020年3月修了）の「超高齢化社会に向けたデジタルデータ戦略分析及び日中連携ビジネスの可能性」である。これらは、基本的に修士

学位請求論文として提出された内容であるが、本文については、著者本人による若干の修正を施して掲載していることをご了承願いたい。掲載した修士学位論文については、本号発行の前年度（2019年度）に修了した学生の執筆した論文等のうち、研究科委員会において優秀であると評価された論稿であり、本号より毎号、数編掲載していく予定である。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、ほぼすべての授業科目をオンラインにより実施せざるを得なかった。オンライン授業の導入は、学生と教員、学生と学生との新たな相互作用の仕組みとして効果的な側面もあり、今後も様々な活用を検討していく必要があると考えている。しかしながら、アジアビジネスの現実を国際的な視野で捉える当研究科の教育目的に基づいて開設以来14年間実施してきた、約2週間に亘るアジアビジネスに関する海外研修は、節目の15年目に実施することができなかった。代替として行ったオンラインでの経営者等による講演会は、通常の研修では1都市に限られるものが、上海、香港、バンコク、東京と多様な視点で展開することができたものの、企業等の現場において肌で感じることによって得られる経験を学生諸君に提供できなかったことは、誠に残念であった。2021年度は、オンラインの可能性をさらに引き出すと同時に、ビジネススクールに学ぶ学生に経営活動を実感させる工夫をし、学生の研究活動を刺激していくことが課題となる。

以上